

## 4つの森林活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



小手澤の森  
第1・3日曜日



知足の森  
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森  
小原本陣の森  
不定期活動

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



**No.605-606**

一年で一番腕が上がっている時期、径が大きい木に挑戦

### 【定例活動報告】 小手澤の森

ご近所の石村さんと知り合って「緑のダム」の活動に参加するのがはじまり。野や山にそられる私は、近くに会社を移した丸茂さんにいざなわれて、引き続き月の第三日曜日は「相模湖の日」と決めています。努力目標ですが。

4月の活動日は、山の桜も終わり、いろいろな色のつつじが咲きほこっていました。目に青葉、山ホトトギスでしたね（初ガツオが欠けてますが）。つつじの間に道を作ろうと、進んでいき、足元を見ると、大玉のノビル、香りのいい山の三つ葉、そして細いけれど青々とした山のフキなどが、私を呼んでいます。わかった、摘んでいくからね、と作業の手を止めて、

緑のダム北相模は相模原  
市内で活動する森林ボラ  
ンティアです。急がず、無  
理せず、楽しく、休ま  
ず、ボチボチと・・・



採取作業に。まさに旬の自然の恵みをいただく至上の贅沢なのです。おまけに掘りたてのタケノコまでリュックに入れ、重さもなんのその。背中と手に幸を抱えて、いつもの「かどや」に向かいました。「丹沢ほまれ」のアテには津久井の大豆を使った料理。いつものグラタンやピザは残念ながら終わっていましたが（本当に、昼間から飲んでいる人の多いこと！ヒトのこと言えないけど）、お箸で一粒ずつ大豆をつまんでツツミにする嬉しさは格別！

いい気持ちで家に帰り、さっそくタケノコを大鍋で茹で、フキも茹でてあく抜きをし、翌日はフキとタケノコでタケノコごはん。三つ葉とタケノコでかき揚げ。フキの葉も捨てずにつくだ煮にし、今夜も弥生亭は山の幸と美味しいお酒でにぎわっています。

星野 弥生（本会、会員）

## 【定例活動報告】 知足の森

最初に行った間伐では、新入生は初めて本格的に使用するのこぎりに苦戦しながらも、頑張っ作業をしている様子が見受けられよかったです。作業後は間伐をした区域が開けて見え、達成感を感じることができました。午後はヒノキの間伐を行いました。一本の木の間伐し、枝打ちをするのに一時間かかり、手作業による森の管理がいかに大変であるかを実感しました。だからこそ、最初にお話いただいた「一人ひとりが先を見据えて行動する」ことが大切であるということを感じ、これはサークルでの山作業でも伝えていくべきことだと感じました。

私たち森の会の拠点が岩手県にあり、頻繁に活動できないことから、近場で勉強させていただける機会はとても有難かったです。NPOの運営も高齢化が進み、今後に不安を抱えている現状も伺いました。私たち若い世代が定期的に参加することで活動に少しでも貢献していきたいと感じました。今後ともよろしくお祈いします。

武内 珠理（早稲田大学文化構想学部文化構想学科2年、思惟の森の会）

今回の活動には大学生の方々が参加してくださり、中学生である私も大学生の皆さんと作業をさせていただいた。やはり私たち中学生よりも力がある方々で、間伐やそれに伴う重い丸太を運ぶ作業でも大変助けられた。このように、GTELABの活動はこのように中学生以外にも多方面に広がっていくものであり、またそれに伴って様々な人と繋がりができるという点でも森での活動は魅力に溢れている。

また、午後の活動では二年生が木を切り倒すところをサポートさせてもらった。昨年度から一年間、森で作業をしてきた二年生のグループがどんな風に木を切るのか。私は作業は手伝っても、木を倒す方向や滑車をつける木については口を挟まないようにした。私が見ている間にも、二年生は的確な判断で三年生にも遜色なく木をきれいに切り倒した。どこにも引っかかることはなく、ともすると私たち三年生よりもスマートだったかもしれない。新年度に入り、新しく加入する一年生に対しては、是非とも二年生が色々と教えてあげてほしいと思っている。

末吉 良多  
(GTE LAB 中学3年男子)





## 桜井尚武の 森のコラム

### 「コクサギ (*Orixa japonica*)」

ミカン科の樹高が2m程度になる落葉低木で山地の樹陰下、特に沢沿いに多くみられます。小原のお花畑の東屋（あずまや）から長福寺へ行く道の沢沿いにも多く見られます。葉は先のほうが少し広がる倒卵形、薄い洋紙質で表面には光沢があり葉脈が明瞭に見えます。この葉は2枚づつが交互につく特異な形状で、珍しいのでこのような葉の付き方をコクサギ型葉序と名付けています（図1）。コクサギ型葉序はケンポナシ、サルスベリに見られますが他の樹種に何があるかは知りません。

雌雄別株で花期は4月～5月、雄花は3cm～5cmの長い総状花序に沢山着き（図2）、雌花は小枝に単生します（図3）。秋には2個～4個がまとまった一つの果実となって熟します（図4）。

分布は温帯、暖帯で本州、四国、九州と日本各地に普通で、朝鮮南部、中国にも分布するといえます。

本種は強い柑橘系の臭気がありますが、樹体や葉を傷つけたりして樹液を出させなければあまり気になりません。葉を太陽方向にかざしてみると葉脈がよく透けて見えます。葉一面に粒粒の透明な点（粒粒）が散らばっているのも見えます（図5）。この粒粒がミカン科特有の臭気を発する油分を含む組織で油点（ゆてん）と名付けられています。他のミカン科の植物にも広く見られます。古くからこの油点に含まれる成分が持つ殺虫効果が知られて農地の有害生物除去などを期待しての農地への肥料や鋤込みに使われたという民俗が各地にみられるといえます。



図1 コクサギの葉

20110708 大雄山最乗寺神奈川

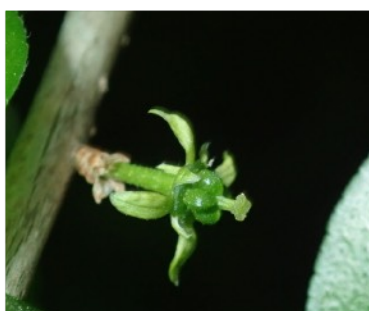


図2 コクサギ雄花

20240421 小原相模湖



図3 コクサギ雌花

20240421 小原相模湖



図4 コクサギ果実

20220515 小原相模湖

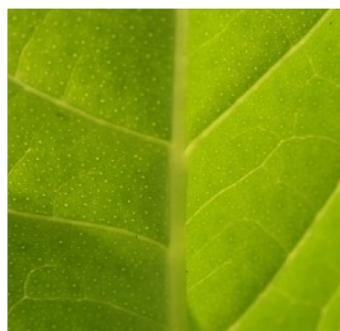


図5 陽光にかざした油点が散らばる葉

20240421 小原相模湖

桜井 尚武（本会、会員）

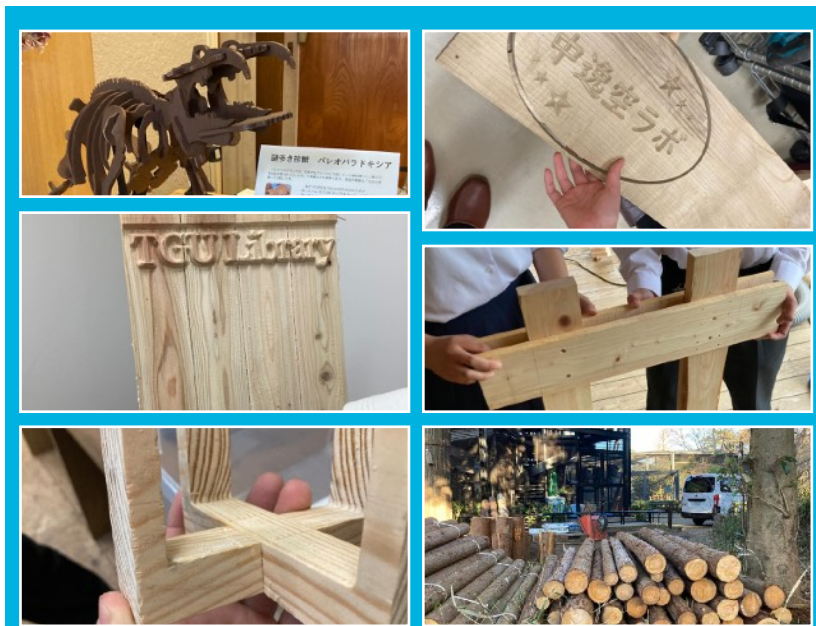
### 【活動報告】 GREEN TECH ENGINEER LABの活動から

本会で間伐し、搬出した材は乾燥、製材され、私が勤務する東京学芸大学内で保管されています。この間伐材を生かす活動として、本会に参加する中学生も参加しているGREEN TECH ENGINEER LABの活動があります。いわゆる木工活動だけでなく、ShopBotというデジタル制御のCNCルーターを使っての制作活動も行っています。今回は最近制作しているものをご紹介します。

・まずは丸太そのものをそのまま活用していただいているのが井の頭自然文化園さんです、リスの小径というニホンリスを放し飼いでいるスペースや繁殖棟に入れています。この丸太の皮をリスがかじって巣材にしているそうです。

- ・研究室のプレート、大学の研究室の入り口のプレートの依頼があり、こちらも制作寄贈しています。
- ・市内公園にある花壇の柵、こちらは打ち合わせなどしながら試行錯誤を繰り返しています。
- ・市内の滄浪泉園という庭園にある水琴窟をイメージした看板、こちらはShopBotで板から立体物を作る試みで、ツボ部分は完成し、看板部分に取り組んでいます。
- ・大学図書館の掲示板やパーテーション、こちらもそこそこの数を頼まれており、試作1号を納品し、2代目以降の制作をしています。
- ・大学にあるイベント用コースターとコースター立て、コースター立てもShopBotで板から立体物を作っています。
- ・こちらは合板からですが、秩父に生息していたという大型哺乳類の骨格模型をペーパーパズルを参考に制作し、地元のホテルに寄贈、フロントに飾ってもらっています。

宮村 連理 (本会、副理事長)



### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## NPO法人

### 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模  
 現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内  
 支援団体：セブン-イレブン記念財団  
 積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構  
 パタゴニア  
 協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、  
 東京学芸大学環境教育研究センター、  
 (社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、  
 (社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金



一般財団法人  
セブン-イレブン  
記念財団



SEKISUI HOUSE  
MATCHING PROGRAM

